

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岩出市立 根来小学校  
種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒649-6202  
和歌山県岩出市根来 4 7 9

E-mail k-negoro@mail.city.iwade.wakayama.jp  
Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 242名    女子 248名    合計 490名  
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「自分も他の人も大切にし、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する」ことを学校教育目標とし、主体的に学び・行動し、持続可能な社会の形成者として、「自立していく力」を育成する取組を推進している。

また、これらの取組を持続的に実施していく上で、根来寺を中心に発展してきた、この「根来」という地域の持続的発展が必要不可欠である。

そのため、「地域と共に歩む学校」づくりをめざし、和歌山県教育委員会が平成 20 年度から推進している「きのくに共育コミュニティ」の理念（「子どもも大人も共に育ち・育て合う」＝「共育」という考え方）に基づき、学校教育を推進している。

具体的には、「地域と学校の連携による学校力・地域力の向上」を図ることを ESD と捉え、学校の様々な教育活動の中で、地域共育（学校・地域協働活動）・人権教育・防災教育等を中心に、体験的な活動を豊富に取り入れながら実践している。

地域という「大応援団」に支えられ、子供たちは、地域の方々と共に活動し、温かいまなざしに包まれ、褒めてもらい、また、認めてもらう、そんな経験を積み重ねていく中で、「自尊感情」や「自己有用感」が育まれ、また、地域への帰属意識も芽生えてきている。

（そうした日々の営みの一部を以下に紹介する。）

### ① 人権教育に係わる活動

市保健師による「命の大切さを知る授業」等を通じ、「自分のことも友達のこと大切にして」という、まさに人権教育の基本となる考え方について学習した。また、日本財団の「あすチャレ！スクール」事業を実施し、パラスポーツの体験と、障害理解のための学習を行った。

### ② 防災教育に係わる教育

紀伊半島沖での地震の発生が心配される中、消防署の協力のもと、避難訓練を行った。避難するとき注意する「お・か・し・も」について勉強した。また、本校で開催された「地域防災訓練」に児童も参加し、心肺蘇生法や土嚢の作り方などについて教わった。

### ③ 地域共育に係わる取組

#### (7) 学校支援活動の推進

- ・ 登下校時の見守り活動
- ・ 新入学児童の下校引率
- ・ 学習支援（調理・ミシン実習、習字、そろばん、陸上競技練習補助）
- ・ 校区学習等の引率

#### (イ) 学びと憩いのオアシス「ねごろカフェ」の開設

定期的に校内（コミュニティルーム）に集まり、子供のことや日々の様々な出来事をリラックスした雰囲気の中で、楽しく情報交換（おしゃべり）する会（「ねごろカフェ」）を開催。その中での共同学習から「放課後にここ図書室」などの新たな活動が生まれている。

#### (ウ) 「共育ミニ集会」の実施

保護者、地域の方々、本校教員が一堂に会し、子供たちの健やかな成長を願い、それぞれの立場でできることを話し合い、指導に生かす「共育ミニ集会」を開催。今年度は、「育てたい子供の姿」などについて改めて意見交換し、次年度からのコミュニティ・スクールの足がかりとした。



①の写真（あすチャレ！）



②の写真（地域防災訓練）



③の写真（七夕の飾り付け）



③の写真（1年生の下校引率）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域共育)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自尊感情・自己有用感)	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(放課後子供教室の機会)	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度) ※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>これまでの活動から既に定例化しており、各取組は学校全体の、また、各学年の年間指導計画に位置づけて実施している。また、新たな取組は、次年度からも継続的に実施し、定例化していけるよう検討していくこととしている。</p> <p>すべての活動の根底には、「自尊感情」・「自己有用感」の醸成ということがあり、学級での仲間づくりはもとより、学年を越えての友だち関係づくりに繋げている。こうした人間関係を構築していくことが、学力の向上、問題行動の抑止にも繋がるものと考えている。</p>
---

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

※チェック事項 1-4 に対応

各教員からのニーズを集約し、学校支援ボランティアの要請に繋げるため、「地域連携担当教員」を校務分掌で位置づけている。  
また、同教員が、そうした各教員からのニーズを「地域共育コーディネーター」（ボランティアの調整役）に繋ぐ体制を取っている。  
この体制は、平成 20 年度から取り組んでいる「共育コミュニティ」の取組を通じて培われてきた体制であり、今後も継続していけるようにしたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

※チェック事項 1-5 に対応

「共育コミュニティ」の取組をベースに、知・徳・体の部分での取組状況を、教職員による自己評価と保護者代表（PTA 役員）による評価をもとに、学校としての自己評価を行い、その結果を学校評議員（学校運営協議会委員）に（外部）評価していただく方法を取っている。  
新たな分野での取組に繋げていけるよう、また、マンネリ化を避けるよう、このサイクルを回していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

※チェック事項 2-2 に対応

ホームページ、学校広報紙はもとより、取組を支援してくださっている地域の方々への感謝の意を表する手段として、マスコミに対して情報提供を行うなど、新聞・テレビ等で紹介されるように努めている。  
取組が様々なところで紹介されることで、支援くださっている方々の「次もまた」というモチベーションの向上にも繋がっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）

※チェック事項 2-3 に対応

青少年育成市民会議根来支部をはじめ、地域の様々な立場・活動に尽力されている方々の協力のもと、「根来地域共育コミュニティ本部」として、様々な教育活動に協力いただいている。  
来年度からは、いわゆる「コミュニティ・スクール」としての位置づけを行う予定。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールへの登録も浅く、まだまだ、自校の取組を維持発展させていかなければいけない段階であり、他のユネスコスクールと繋がる・交流するという段階には至っていない。

なお、交流・ネットワークの形成のためには、予算面での課題がある。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

※チェック事項 2-5 に対応

これまでの「共育コミュニティ」の取組を通して、地域の方々の学校に対する心理的な「敷居」が低くなってきている。また、教職員も地域の方々をはじめ、「外部の方が学校にいる」という状態がごく自然な形で受け入れられるようになってきたことが、最も大きな成果である。この関係性こそが、持続可能な教育を進めていく上で必要不可欠であり、であるからこそ、逆にこの関係性を維持・発展させていくことが重要である。

(3) 平成 30 年度の活動計画

「根来地域」という生活空間をともにする人たちが、この地で出会い、新しい人間関係を結び、その協働を通じて、新たな価値観なり、成果物を生みだしていく、その中で子供たちも、教員たちも、そして家庭・地域の人々も成長していく。これこそが、根来地域の伝統であり、これからもさらに継承・発展させるべき姿である。

学校のみならず、根来地域という「まち（コミュニティ）」が、「めざす子供像」を共有し協働して、子供たちを育てていくために、ユネスコスクールの活動を生かしていきたい。